

◆分野を代表する目標：観光総消費額

単位：億円

	R 4 (出発点)	R 5	R 6	R 9
目標	1,130	1,288	1,276	1,389
実績	966	1,290	-	-
達成度	B	A	-	-

◆分野を代表する目標：県外観光客人泊数

単位：万人泊

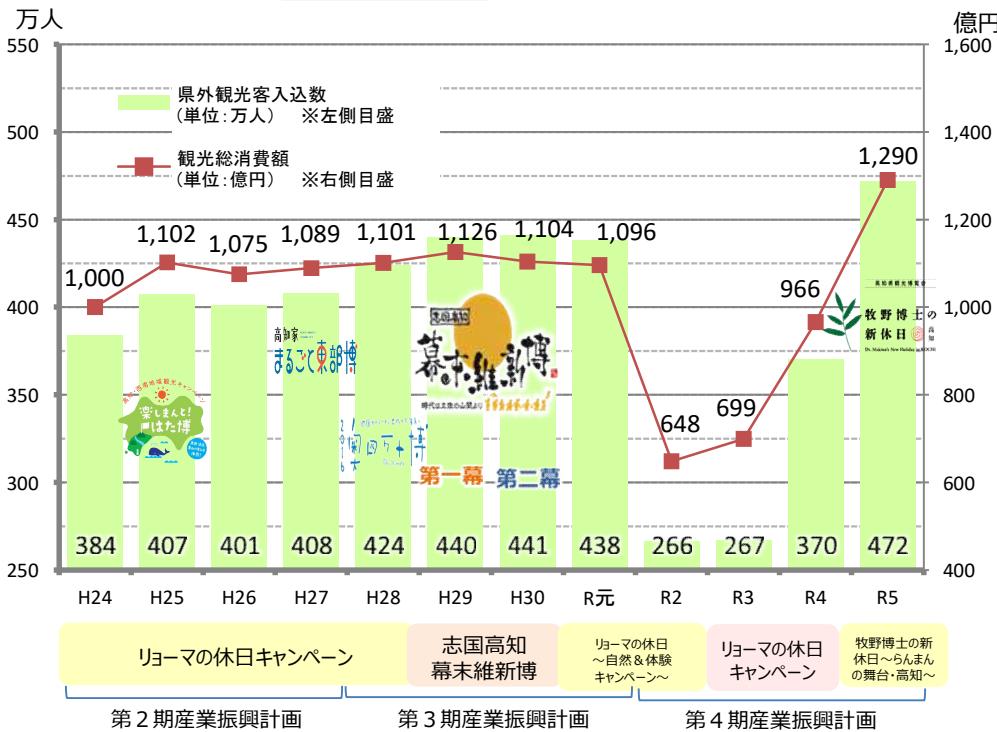
	R 4 (出発点)	R 5	R 6	R 9
目標	-	-	541.4	563.9
実績	426.6	522.0	-	-
達成度	-	-	-	-

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

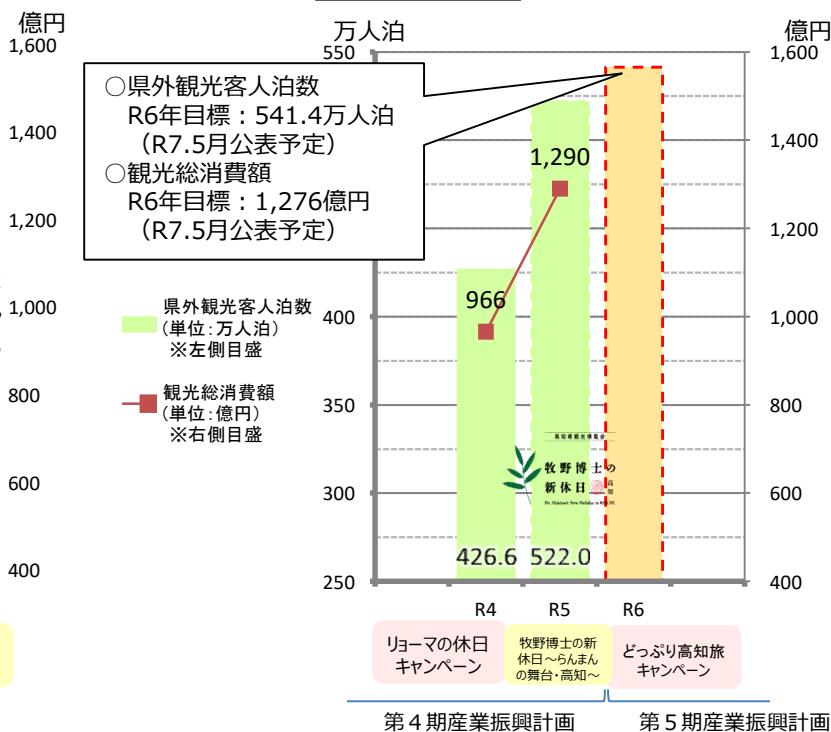
◆分野を代表する目標の達成見込み

- 主要観光施設の利用者数でみると、R6.1～7月は1,890,047名で前年同期比100.1%と堅調推移しているものの、4月以降は前年より減少してきている。過去最高の入込客数となった昨年の反動減（連続テレビ小説「らんまん」効果に伴う反動減）や、物価高騰による外出控え（消費控え）、南海トラフ地震臨時情報に伴う来県意欲の低下などが懸念されるが、来年度放送予定の連続テレビ小説「あんぱん」を最大限に生かし、誘客の拡大と県内周遊の強化を図ることで、分野を代表する目標の達成を見込む【図1-2】
- 外国人延べ宿泊者数は、令和6年6月末時点で60,460人泊（速報値）と堅調に推移（前年同期比115.0%）。台湾との定期チャーター便の運航継続や近隣県における国際線の増便などによるインバウンド観光客の増加により、目標達成を見込む【図2】

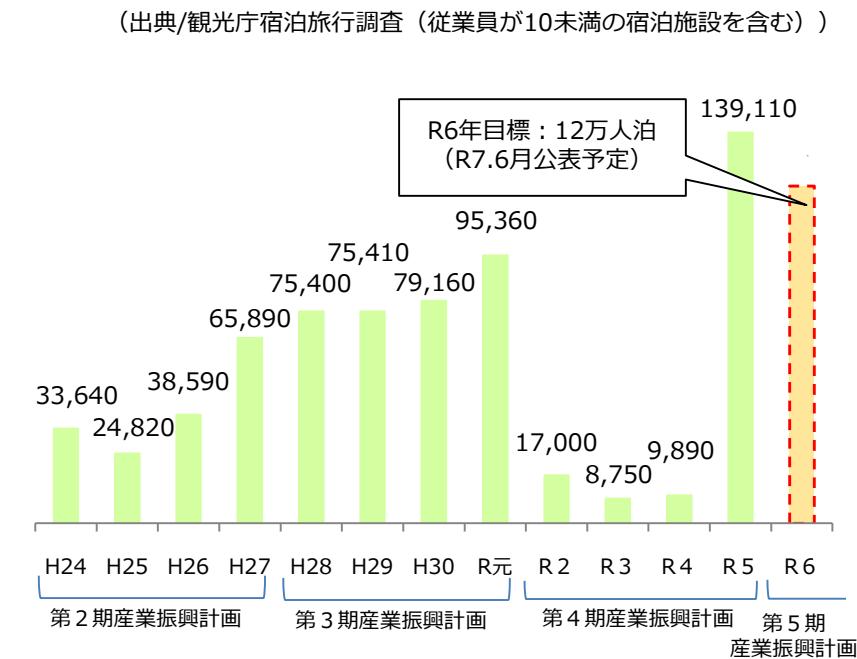
【図1-1】 県外観光客入込数（※R5まで）及び観光総消費額の推移



【図1-2】 県外観光客人泊数（※R4から）及び観光総消費額の推移



【図2】 本県の外国人延べ宿泊者数の推移（単位：人泊）



【表1】 その他主要な戦略目標達成状況

項目	出発点(R4)	実績(R5)	達成目標(R6)
中核となる観光施設(14施設)の入込数(年間)	209.1万人	275.2万人	275.2万人
県外観光客入込数(年間)	370万人	472万人	465万人
スポーツによる県外からの入込客数(年間)	53,161人	86,094人	70,000人

【表2】 観光客満足度調査結果

※「大変良い」「良い」を合計した割合（観光政策課調べ）

項目	出発点(R4)	実績(R5)	到達目標(R6)
観光施設における満足度(年間)	86%	87.3%	87.5%
宿泊施設における満足度(年間)	80%	81%	82%

令和6年度上半期の進捗状況

課題

強化の方向性

ポイント 高知県観光の盛り上げと中山間地域の活性化

(1) 連続テレビ小説「あんばん」を生かした情報発信

(1) 連続テレビ小説「あんばん」を生かした情報発信

(1) 連続テレビ小説「あんばん」を生かした情報発信

〈令和6年度下半期の取り組み〉

- ① ドラマの動きと連動したセールス・プロモーション
 - ・やなせ氏の功績を紹介するリーフレット等の制作
 - ・首都圏・全国メディア等を活用した情報発信
 - ・大手書店と連携した観光PRイベント
 - ・やなせキャラや県内マンガ関連スポットなどの周遊企画
 - ・「あんばん」をフックとした誘客の拡大と県内周遊の強化（「あんばん」関連施設の周遊促進を図る助成を新設等）
 - ・やなせキャラ活用促進、物部川エリアを含むモニターツアーの実施

〈令和7年度の取り組み〉

- ① ドラマの動きと連動したセールス・プロモーション
 - ・やなせ氏ゆかりの地などと連携したPR
 - ・首都圏、関西圏を中心とした誘客イベントの実施
 - ・「あんばん」と「どっぷり高知旅」の連動による中山間地域への誘客

- ① ドラマの動きと連動したセールス・プロモーション
 - ・観光商品説明会及び商談会でのセールス（4～9月 東京、大阪、広島、福岡 計8回）
 - ・あんばんの放送と連動した情報発信（全国・首都圏エリア）（8/28 やなせ氏のふるさと高知をPRするポスター等の制作）
 - ・アンテナショップオープンと連動した情報発信（6/19～6/24 阪神百貨店での高知県フェアの出展、6/22～6/23 JR大阪駅アトリウム広場での高知県フェア出展、9/7～9/8 アンテナショップオープニング1ヶ月後イベント、4月～関西・中四国メディアへの露出（計45件））

- ① ドラマの動きと連動したセールス・プロモーション
 - ・物価高騰による外出控え（消費控え）
 - ・過去最高の入込客数となった昨年度の反動減（らんまん効果に伴う反動減）
 - ・地政学リスク(南海トラフ地震臨時情報)に伴う、来県意欲の低下

(2) 「極上の田舎、高知。」をコンセプトとした観光商品づくり

(2) 「極上の田舎、高知。」をコンセプトとした観光商品づくり

(2) 「極上の田舎、高知。」をコンセプトとした観光商品づくり

〈令和6年度下半期の取り組み〉

- ① 住民とのふれあい、暮らしに触れる、地元産業の活性化に資する観光商品の造成
- ② 神祭への参加など伝統文化の継承につながる体験プログラムの造成
 - ・コーディネーターによる地域の伴走支援
 - ・造成した商品のPR、販売
 - ・オンライン勉強会の開催（毎月1回）
 - ・成果発表会の開催
 - ・来年度に向けた地域の掘り起こし、市町村要望調査の実施
- ③ 旅行商品の高付加価値化や滞在期間の延長
 - ・特別体験ツアーの造成
 - ・モニターツアーの実施
 - ・ガイドの仕事につながる「稼げるガイド」の育成に向けた研修

〈令和7年度の取り組み〉

- ① 住民とのふれあい、暮らしに触れる、地元産業の活性化に資する観光商品の造成
- ② 神祭への参加など伝統文化の継承につながる体験プログラムの造成
 - ・宿泊施設を中心に、地域内の体験や飲食を面的に紹介する特設サイトの新設等
 - ・観光相談窓口の設置による既存商品や造成した商品の磨き上げ
- ③ 旅行商品の高付加価値化や滞在期間の延長
 - ・インバウンド向けの通訳ガイド付き「どっぷり高知旅」商品の造成
 - ・外国人富裕層へのアプローチが可能なエージェント等に対する情報発信やセールス
 - ・稼げるガイドの育成

- ① 住民とのふれあい、暮らしに触れる、地元産業の活性化に資する観光商品の造成
- ② 神祭への参加など伝統文化の継承につながる体験プログラムの造成
 - ・エリア選定のための市町村ヒアリングを実施（5～6月 19市町村）
 - ・地域への「どっぷり化」普及啓発のための勉強会を実施（6/18～6/20 6回）
 - ・エリア、コーディネーターの選定、伴走支援
 - コンテスト受賞エリアと重複する市町村を優先的に選定（6/20 2市：四万十市、土佐清水市）
 - その他のエリア選定に向けた基準の作成、エリア選定（6/27～7/2 8市町村）
 - （8月末から弁天座の歌舞伎体験（香南市）など順次商品化）
 - 専属のコーディネーターを配置し、伴走支援を開始（6/16～）
- ③ 旅行商品の高付加価値化や滞在期間の延長
 - ・観光庁事業を活用したインバウンド向けプレミアムコンテンツの委託事業者の決定（7月 観光庁「地域観光新発見事業」採択）

- ① 住民とのふれあい、暮らしに触れる、地元産業の活性化に資する観光商品の造成
- ② 神祭への参加など伝統文化の継承につながる体験プログラムの造成
 - ・観光客に地域を深く味わいながら長期滞在していただくためには、県内全域で商品造成を行うことが必要
 - ・クルーズ船の寄港や大阪・関西万博からの誘客に向けて、日本文化を好むインバウンド観光客にも対応できる商品造成を行う必要がある
 - ・造成した商品のPRを強化し、販売につなげる支援が必要
- ③ 旅行商品の高付加価値化や滞在期間の延長
 - ・外国人富裕層の誘客が見込まれるコンテンツの磨き上げや体験内容の拡充、柔軟な受入体制づくりが必要
 - ・外国人富裕層へのアプローチが可能なエージェント等に対する情報発信やセールスが必要
 - ・外国人観光客に向けて高知の魅力を伝えるガイドが不足

令和6年度上半期の進捗状況

課題

強化の方向性

(3)長期滞在を目指した受皿づくり

- ①宿泊施設を中心に観光事業者が連携した長期滞在を促進するための取組支援
 - ・支援対象エリアの選定
(5市町7グループからエントリー、4グループを選定)
 - ・専門家派遣等による個別支援(8/5～)
- ②中山間地域において、宿泊施設を中心に長期滞在できる態勢づくりの支援
 - ・分散型宿泊施設等に関するセミナーの開催
(6/6 参加者：計96名)
 - ・支援対象エリアの選定
(4市町5エリアからエントリー、3エリアを選定)
- ③観光関連施設の受入環境整備を推進
 - ・補助金(採択1件、審査中1件(R6.8末時点))
 - ・観光関連事業者の集まる会議等で多言語対応やキャッシュレス決済等に関するニーズを周知し、取組を促進
(6月 広域観光組織、7月 市町村観光主管課)
- ④地域通訳案内士等のガイドスキルの向上
 - ・育成研修(登録者数85人(R6.3末時点))

(3)長期滞在を目指した受皿づくり

- ①宿泊施設を中心に観光事業者が連携した長期滞在を促進するための取組支援
- ②中山間地域において、宿泊施設を中心に長期滞在できる態勢づくりの支援
 - ・来年度以降、高知市へのホテルオープン(約1,000室増)が見込まれるなか、宿泊客の増加に向け、宿泊施設の魅力向上の取組強化が必要
- ③観光関連施設の受入環境整備を推進
- ④地域通訳案内士等のガイドスキルの向上
 - ・特に多くの外国人観光客の来訪が見込まれる観光関連施設や土産物店等において、多言語化やキャッシュレス決済の導入拡大が必要
 - ・地域通訳案内士の登録後、実際に活躍できる場が少ない

(3)長期滞在を目指した受皿づくり

- 〈令和6年度下半期の取り組み〉
- ①宿泊施設を中心に観光事業者が連携した長期滞在を促進するための取組支援
 - ・アクションプランの作成、取組事例の公表・横展開
 - ②中山間地域において、宿泊施設を中心に長期滞在できる態勢づくりの支援
 - ・モニターツアーの実施、取組事例の公表・横展開
 - ・事業計画策定に向けた現地踏査、先進事例視察、勉強会等実施
 - ③観光関連施設の外国人観光客受入環境整備を推進
 - ・観光関連事業者への多言語化やキャッシュレス決済等の取組
 - ④地域通訳案内士等のガイドスキルの向上
 - ・ガイドの仕事につながる「稼げるガイド」の育成に向けた研修
- 〈令和7年度の取り組み〉
- ①宿泊施設を中心に観光事業者が連携した長期滞在を促進するための取組支援
 - ②中山間地域において、宿泊施設を中心に長期滞在できる態勢づくりの支援
 - ・空き家等の改修や企業誘致(起業)に係る支援の拡充(宿泊業やアクティビティを行う事業者等のスタートアップ促進)
 - ・支援を実施するエリア数の拡充や先進事例の横展開の強化
 - ③観光関連施設の受入環境整備を推進
 - ・Wi-Fi、トイレ、キャッシュレス、多言語対応の受入環境整備を推進
 - ④地域通訳案内士等のガイドスキルの向上
 - ・稼げるガイドの育成

(4)積極的な人材の確保

- ①学校などの教育機関との連携による新たな観光人材の裾野の拡大
 - ・ガイド研修会の実施
(6～7月 ガイドに関心のある方向け初心者セミナー 109名参加)
 - ・ガイド体験会の実施
(9月 ガイドツアーに参加する体験会(ガイドを初めてみたい人向け))
- ②外国人材の活躍推進に向けた関係機関との連携強化
 - ・台湾の2大学から県内宿泊施設でインターンシップ受入
(7/1 台湾東海大学生を受け入れ 計6施設、9名)
 - ・台湾インターンシップ受入旅館ホテルによる勉強会(7/26 1回)
 - ・県・旅館組合・県内専門学校の3者で、県内留学生の受入について意見交換会及び勉強会の実施
(6～7月 旅館ホテルでのアルバイト採用に向けた取組について協議)
 - ・台湾ミッション団派遣(インターンシップ受入継続に向けた調整)
 - ・インドミッション団派遣(北東インド人材の視察に向けた調整)

(4)積極的な人材の確保

- ①学校などの教育機関との連携による新たな観光人材の裾野の拡大
 - ・ガイド団体に所属している方のスキルアップを目的とした参加者が多く、ガイド未経験者や生徒・学生等の若手の参加者が少ない
 - ・繁閑の差から生じる非正規社員率の高さ
- ②外国人材の活躍推進に向けた関係機関との連携強化
 - ・外国人材の採用に対する宿泊施設の知識不足や不安の解消が必要
 - ・住居の確保が必要

(4)積極的な人材の確保

- 〈令和6年度下半期の取り組み〉
- ①学校などの教育機関との連携による新たな観光人材の裾野の拡大
 - ・お手伝いガイドの実施
(ガイドの補佐役などを体験する機会を提供)
 - ※新たな裾野拡大のため、特にガイド未経験者の参加や育成を促進
 - ②外国人材の活躍推進に向けた関係機関との連携強化
 - ・宿泊施設との意見交換会や勉強会の実施による意識の醸成
 - ・専門学校留学生の宿泊施設におけるアルバイトをマッチング
- 〈令和7年度の取り組み〉
- ①学校などの教育機関との連携による新たな観光人材の裾野の拡大
 - ・ガイドセミナーや体験会などを開催し、多様な担い手の育成を継続
 - ・平日宿泊を促進するキャンペーンの実施による需要の平準化
 - ②外国人材の活躍推進に向けた関係機関との連携強化
 - ・事業者の住居確保を支援
(県や各市町村が所有する公営住宅の活用を検討)